

台湾高校生日本留学事業 第6期 留学中間報告

当協会の台湾高校生日本留学事業では、台湾の高校生が日本の高校に約11ヶ月間留学し、日本の高校生と同じ環境で生活を送りながら、日本の社会・文化・歴史等を学ぶ機会を提供しています。留学した台湾人高校生が将来知日派人材となり、日台間の架け橋として日台関係の更なる発展に寄与すること、及び受入校の日本人高校生等の台湾に対する理解を増進することを目的としています。

今年度派遣の第6期生は、2022年8月より留学を開始し、半年が経ちました。今回は、留學生活で感じた日台文化の違いについて留学生4名の報告を紹介いたします。

学校生活で感じた日本と台湾の違い

順天高校 許芯綾

光陰矢のごとし、日本での留学の時間はもう半分が経ちました。この間に、学校生活でいろいろな文化の違いを感じました。「カルチャーショック」があり、慣れない時もあったけれど、それぞれを日本文化の一部として学び、自分が「留学生」ではなくて「日本人」であると想像して色々な事に挑戦しています。

私の学校には、毎日「朝礼」と「終礼」というものがあり、これは台湾の学校にはありません。登校後と下校前に、先生にお礼をし、その後先生は次の日の注意事項と提出物のアナウンスをします。昼食の時間になると、みんな給食ではなく、お母さんの手作り弁当を食べます。「なぜ日本の高校には給食がないのですか？」と友達に尋ねたら、「高校生は昼食に自分の好きな物を食べたいからだと思う」という答えが返ってきました。私は日本にお母さんが居ないため、毎日学校の食堂で食べています。台湾の高校は、毎日登校と昼食後の時間にトイレと廊下を掃除しますが、日本はみんな放課後に教室を掃除します。

また、日本は制服についての規定が厳しいと思います。校内で上履きに履き替えたり、毎日制服で登校しなければならないのです。台湾の高校で

は、体育の授業がある日には体育着とスニーカーのまま学校に來ます。そして、冬になったら、日本の高校は制定品以外の服の着用が禁止になり、自分のアウターを着てはいけません。台湾の高校にはほとんどこのような規定はありません。私が、一番驚いた事は、日本は台湾より寒いけれど、日本の女子高校生はどれほど寒くても制服のスカートを履きます。台湾ではみんな冬にズボンを履いています。

私は学校で「Eクラス」と呼ばれる英語選抜類型に入っています。そして、日本の英語授業は台湾より学生たちの会話力を重視していると思います。毎回隣席の人とペアを作って色々な会話の練習とプレゼンテーションをします。また、日本の先生は台湾と比べて、沢山のプリントを配布します。たまに教科書ではなく、主にプリントを使って教える先生もいます。また、生徒たちはテストの内容を暗記する為に、常に「赤シート」を使っています。「赤シート」は赤ペンで暗記したい部分を書き、それを使って文字を隠すことができます。私はそれを日本に来て初めて知ったものだったので、とても目新しいと思いました。

留学に來る前に、日本の学校は台湾よりも部活

動が広く行われていることを知りました。それを体験する為に、ダンス部に入りました。授業がある日は、週に4回放課後に約2時間練習します。大会が近くなったら、土日にも追加練習があります。台湾では週に1コマの「部活」という授業があるので、学生は全員部活に参加する必要があります

日本の高校と台湾の高校の違いについて

日本の高校と台湾の高校の違いを4つの部分に分けて紹介したいと思います。まずは学校環境についてです。麗澤瑞浪高校は中高一貫校ですが、台湾の高校と違って学校がとても広くて、寮、食堂（カフェテリア）、3つの体育館、グラウンド、最も驚いたのがゴルフ場もあります。日本人がほぼ自分で登下校していることは知っている台湾人は多数いて、その自立心には感心させられます。また、台湾の小学校と中学校には食堂がないので、昼食は学校名義で注文したお弁当かコンビニに売っている弁当でご飯を済ませます。台湾では、食堂は大学にしかありません。日本では自動販売機もありますが、日本の多くの学校は食育という政策に取り組んでいて、昼食は郷土料理がメインで



12月の時、インドネシアの留学生と一緒に岐阜市で行われた日本語能力試験を受けました。(名古屋駅で撮った写真です)

ます。日本の部活は自由参加ですが、練習量は台湾の何倍にもなります。

私は日本に来てわずか数ヶ月で、日本の豊かなキャンパスライフを体験しました。残りの時間も、頑張って一生忘れない思い出を沢山作りたいです。

麗澤瑞浪高校 鄭景文

す。カロリーや栄養情報なども表示されているので、やはり最近は生徒たちが食堂へご飯を食べに行くようになりました。

次に、最も違うところは、毎日の挨拶です。朝、先生や先輩は勿論、後輩と同級生に会ったら、大きな声で挨拶をして、元気よく返事をしなければいけません。台湾では、先生はおろか、クラスメートにもあまり挨拶をしないので、日本に来てすごく驚きました。クラスメートとの関係が深まっただけでなく、先生や先輩や後輩などに挨拶をし始め、毎日元気になって一日を始めることができました。続いて、日本の中間テストと期末テストについてです。台湾と違うのは、固定的な合格点がなくて、全員の点数を平均した上で半分に割り、それより低い点を「欠点」とします。テストの出題も意外と穴埋め問題が多いです。選択肢問題が多く、穴埋め問題のある科目が少ない台湾の高校生であった私にとって、非常に難しくなかなか慣れません。歴史では人の名前、起こったことの年代や記述問題など……私の場合は当てずっぽうで覚えてもダメです。最後に、SHR（ショートホームルーム）という一日の授業が始まる前の10



陸上競技大会でお友達と一緒に撮った写真です。

分ほどの時間です。台湾は朝自習の際、先生が何か連絡事項を伝える数分間と同じような時間です。台湾の高校では、席に座って先生の話聞きながら勉強することに問題はないですが、日本の高校では、身だしなみを整え、正式な挨拶（黙想、直って起立、気をつけ、礼、お願いします）をしなければいけません。また、SHRの間に、先生が生徒にその日の面白い出来事を喋りながら、私

たちとの交流を深めています。生徒同士との関係も深く繋がり、家族のようにお互いを大切にしています。この4ヶ月の中で日本の高校と台湾の違いに驚きと喜びを感じました。日本にいられるのはあと7ヶ月しかないのも、これから日本ならではの文化を学び、台湾にいる後輩たちにも日本の高校生活を知ってもらいたいと思います。

台湾の高校生から見た日本の学校教育

さいたま市立大宮北高校 林苺慈

9月から今まで4ヶ月の時間が経ち、その間で日本と台湾の学校生活の違いを沢山発見しました。先月の3ヶ月後研修で、他の留学生と交流して、日本の公立と私立学校の生活は結構違うことがわかりました。今日は主に私が留学している大宮北高校について以下の相違点をまとめました。

学校の雰囲気について

4ヶ月前、初めて大宮北高校に行った時、学校の環境と想像していた日本の高校は本当に似ていました。大宮北高校は「本気の学習」「本気の部活」「本気の行事」の3つの目標を掲げています。伝統的に、今までずっと制服のルールを守っていて、台湾の高校と比べてそんなに自由な校風ではありません。でも実際の学校の現状から見て、大宮北高校は少しずつ先進的な学校に変わっています。学習の方面は、ICTが導入されて生徒たちは一人一台タブレットを持っており、以前よりよい学習環境を築き上げています。部活について、特に運動部では、部員は一生懸命に練習しています。練習はとても辛いですが、部活動は特別な仲間意識が育ち、放課後の長い練習時間も生活を充実させます。大宮北高校のほとんどの生徒は帰国子女ではないので、皆さんから日本文化を学ぶことができます。それに、たとえ伝統的な学校のルールなどマナーは本当に厳しいと思っても生徒の皆さんは活力に溢れて毎日やる気満々です。

台湾の学校生活と似ているところ

日本の高校では、台湾と同じところもたくさんあります。毎日の朝学と放課後の掃除など学校の

習慣は、台湾からの留学生にとってすぐ慣れることができます。また、授業の内容は国語と公共以外は大体同じなので理解しやすいです。つまり、他のヨーロッパからの留学生より台湾と日本の学校は本当に似ています。

台湾と日本の教育の最大の違い

1. 通学方法：日本で、学生は電車もしくは自転車で学校に行き、天候にかかわらず自分で通学します。一方、台湾は高校生になっても親が送り迎えするのが一般的なことです。
2. 放課後：日本の高校生はあまり塾に通わない代わりに、オンラインビデオを見て、自宅学習をする人が多いです。台湾の高校にも部活があ



学校から眺める富士山

りますが、練習時間は放課後ではなくて授業の時間を使っていて、一部の台湾高校生にとって部活は半強制的なことだと思います。

3. 学校のマナー：学校のマナーについて、挨拶や責任感や清潔を保つという3つの目標を目指して教育します。まず、授業前と授業後の敬礼は先生に対して尊重する表現です。この常識は台湾の学生も知っているかもしれませんが、日本でこの挨拶のマナーは本当に重視されてみんな守っています。そして、責任感については日本の学生は「自分のことは自分でやる」という意識が高いです。例えば、マラソン大会の練習でみんなの忍耐力と一生懸命に目標を達成させようとする態度は留学生として私は学ぶべきことです。もう一つは「自分たちできれいにする」という事でみんなの学習環境はみんな一緒に維持します。生徒たちは毎日掃除し、先生も一緒に手伝うので、みんなの努力のもとで教室はいつもきれいです。

まとめ

最近、ずっと日本と台湾の学校の相違点から「自由の教育」について考えています。

学校のマナーは学生にとって社会に出る前に学ぶべきことだと思います。

制服の着用について例を挙げます。制服は生徒の身分を象徴し、生徒たちの一体感生まれるという良いところがあります。しかし、毎回体育の授業が終わった時、急いで着替えることは本当に不便だと思います。台湾より日本の制服ルールはもっと厳しく感じられます。台湾の高校では制服がありますが、登下校時や日中に制服を着用する必



日本の高校の上履き

要性はなく、自分の体温によって衣服を調整します。選択肢が多様にあるのは良いところですが自由すぎるので、不適切な服装をする生徒もいます。

両方の学校生活を体験して、学校のマナーはもちろん大切だと思いますが、ある程度の服装自由が導入されれば、多様性があるのは悪いことではないです。でも、自分の自由を守りながら、他の人に不便をかけてはいけません。みんな一緒に生活している社会で、基本的な責任感があるべきだと思います。

学校で感じた日本と台湾の違い

京都府立山城高校 邱昱涵

季節は冬に入り、日本に来てからあっという間に4ヶ月になりました。初めての日本高校生活は、台湾で生まれ育った私にとって、すべてのものが新鮮でした。その中でも、色々な文化の違いがあります。

一番印象に残った文化の違いは、日本の高校では団体活動が多いことです。9月の始まりにある、

クラス全員でパフォーマンスを準備したり発表したりする文化祭、10月に京都を出て鹿児島をグループで探求する研修旅行、そして11月に学校全員の生徒を3つのブロックに分けて、リレーや綱引きなどのゲームで対抗する体育祭がそうです。学校行事以外にも、私が留学している山城高校は様々な部活があります。ほぼ9割以上の生徒



文化祭

が部活に入り、週に何回も部活をやっている人も多いです。日本人はいつも周りに迷惑をかけないように一生懸命に目標を達成させて、自分のベストを尽くします。

性格が内向的で他人とコミュニケーションをとることが苦手な私にとって、最初はこんなにたくさんある団体活動に少し慣れなかったが、徐々にみんなに溶け込んでいたら、色々な新しい発見ができました。例えば日本と台湾の文化の違いなど、そしてたくさんのおもしろい人にも出会いました。部活をやるときも、文化祭と体育祭を準備するときも、周りの人と同じ目標に向かって、助け合いながら一緒に頑張ることを通して、私は自分の居場所とアイデンティティを見つけました。

文化の違いを体験することが違う価値観に出会うことだと思います。自分の慣れた場所から離れ、違う文化の世界に入ること、今まで考えたことがない角度から物事を見直せます。また、自分の文化では当たり前のことは他の文化にとってはそうではないことを気づいた時に、自分の視野が広がり、この世の中には実は様々な人がいて、その人

達がそれぞれの生き方を持っている事もわかることができました。

視野を広げるだけではなく、私も文化の違いを体験することで、コミュニケーションをとることが苦手という自分の足りないところがわかりました。そして、それを克服するために、今までしたことのないチャレンジもたくさんしました。これからも、私は文化の違いを乗り越えて、より良い自分になるために努力します。



体育祭